

83

新人合宿 報告書



S.A.C.

信州大学山岳会

目次

	page
5月29日 入山日 (徳本越え) -----	3, 4
30日 明神〜横尾 B.C. -----	5
31日 濁沢雪割 -----	5, 6
6月1日 北穂沢〜北穂北峰 -----	6, 7
2日 白出の川〜奥穂 -----	7, 8
3日 奥又白池へ -----	9, 10
4日 槍ヶ岳へ (槍沢から) -----	10, 11, 12
下川 (槍沢から) -----	
前穂四峰正面壁 北条新村ルート -----	11, 12
滝谷一尾根ナール (左) ルート -----	12
四峰正面壁松高ルート -----	13
滝谷三尾根 -----	14
係の反省 -----	15, 16
個人の反省 -----	17~23



16:35

(テニ場) 疲れた。テニを4張りする

①

うちのハーターは曇々谷と最後に入れたの。割合他のハーターについて
いき順調な方ではなかったと思う。徳本の登りではみんな7人とか入
行、その登りでみんな疲れた様に見える。自分としてはシトイニ
とはあったがうかつはとてはた、割合早く今日の行程を終えた。重荷
は今日で"終わり"なの？"明日から又"楽しんで

(ハーター (鷹取, 細川, 磯田, 加藤, 杉浦, 水谷, 森)

- 5:58 (曇々) ○ 記: 森
- 6:37 小休止 (充電所を少し過ぎたあたり) ○
- 6:58 (砂防ダム) ○
- 7:32 小休止 (二股の少し手前) 雲がうすくなる ○
- 7:46 (二股) ○
- 7:55 (吊橋) ○
- 8:25 小休止 暑!! ○
- 9:20 (一沢出合の少し先) "昼食 1/3 ○
- 10:07 (岩留小屋) 日が出た、徳本まで49km ○
- 11:04 小休止 ○
- 11:59 " (一沢を過ぎた少し手前あたり) 昼食 1/3 ○
- 13:03 " 昼食 1/3 磯田君遅れ始める ○
- 14:25 " (徳本まで20分の標板あり) 磯田ハタタ ○
- 15:26 (徳本峠) 雲多し。薄霧発生、明神が見える ○
下は雪がほとんどない
- 17:11 (テニ場) 白沢と黒沢の生合 ○

(班はヒツ) になってしまった。去年はもとバテた人が出たので
で仕方ないとも。天気は雨にならなかった。マズクは
生は全員 相当疲れている様子。ワーキング=up, クルタウン
にも全員むとしまりやうなまで。休みの時と肩を回す
足元のサージ等した方が いいと思う。<歩行時間合計 39>

5/30 (月)

Aパーティ (北藤田、細川、古賀、大前、加藤、下田、竹本、金野、野村)

- 8:15 白沢出合の天場を出発 気澄野 ①
- 9:08 徳沢園着 つかれが出ている。小屋で抹茶(大) ①
- 9:57 奥又方面の展望所 ていほう非常によい(大) ①
- 11:30 ベースキャンプ地に着く 横尾小谷の山間がきれい。 ①

今日はB.C.まで了時間程であたが、昨日の疲れでやはりしんどかった。肩及び腰、太ももが限界に近づき、B.C.に着いてからの動作がづらかった。

Bパーティ (中村、鷹取、井上、磯田、西本、角谷、杉浦、松本) 北角谷

- 8:10 白沢の天場出発 明神寺にいられた ①
- 9:05 徳沢園着 小屋で抹茶を出してさう ①
- 10:05 長堀沢出合着 前穂、東面がよくなる(大) ①
- 11:45 横尾B.C.着 川原の道着が全く好い ①

天気予報ではさのらの夜から雨ということだったが、降らなくてたす法
 エssen当番は6:00に起きて用意するが1時間もかかってしまう。
 最初の1ピッチはさのらのつかれでたいへんづらかった。
 長堀沢出合で奥又方面をいろいろおしえてもらう天気がよくなった。
 後はつかれがのこっているようでみなづらそうであた今日重い
 キスリングともささならできました。うれしい。

5/31 (火)

<< III・IV のコルへ >>

Aパーティ (細川、井上、田淵、岡本、角谷、森内、下田、磯田、竹本、金野、松本)

- 4:10 横尾B.C. 出発 天気が不安 (予報では雨) ①
- 5:00 休けい (展望所) 荷物かたいおりにあつた ②
- 6:10 洞沢ヒュッテ 雪上訓練をはじめぬ ①
- 11:00 雪上訓練を終りおいて3・4のコルへ向かう ①

13:10 3.4の3ル着 短良好! とても耐強い履型
(14:25元) 検・労務などによく見えた。

16:12 横尾キャブ着 とても疲れた。おんなどこかしら自傷(膝すれ) (脚こり)

明日こそ天気予報がよくなってほしい。早くはまた麓高に登った
ことがないので 絶対おした踏れてほしい。

Bルート (上畑, 中村, 又田, 森, 加藤, 登野, 杉浦, 大前) 迄

4:08 横尾B.C.出発

6:00 涸沢着

6:30 ~ 8:30 雪上訓練

8:50 ~ 10:20

11:00 出発

12:20 Ⅲ-Ⅳの3ル着

13:15 Ⅳ峰 頂上

14:30 涸沢

15:20 横尾B.C.着

雪がくさっていてもたまらなから。ステップを切って登りました。
のは遅いとい。それはそうとⅣ峰に登りました。うれ
い。翌日バテてたまらない。

6/1 (2)

<< 北徳高岳へ >>

11Pルート (中村, 鷹取, 登野, 水谷, 大前, 岡本, 加藤, 森内, 磯田)

4:11 横尾B.C.出発 石巻, 中村が着。

6:10 涸沢着

おん一つかれている。雪割をほし
雪割。雪中一時雨が降る。

- 10:05 雪割をやめ北穂へ向かう 土まひ、しんたい ①
 (10:20)
 ※雪割の内容 ----- {キックステップ
 ビッケルステップ
 クリセード
- 11:35 休む、傾斜がきつい ①
 12:50 北穂 松なみ岩着 非常に土まひ、打風でムキムキ ①
 14:10 涸沢 下はフリセードとリセードでつかれ ①
 15:55 B.C.着 山の上は曇っていたが B.C.は晴 ①

非常に土まひ、しんどく、神経のつかう一日だった。

B12-1 (2藤田、田淵、関森、角谷、宮原、下田、杉浦、竹本) ②:下田

- 4:05 横尾 B.C.着 ①
 5:50 涸沢 昨日の履物がたまっていたため非常に土まひ ①
 雪割をやめ {キックステップ
 滑走停止 横尾へ向かうほうがどうもほいかい、
 クリセード
- 10:20 北穂へ向かう
 11:25 休む 大比が疲れた。
 12:43 松なみ岩着 滝谷から50の風が強いというところまで行く
 岩かけでふるえていた。かすて履物は全然大丈夫 ①
 14:50 涸沢 フリセードやリセードで降りてきた。リセードは1回しか使わなかった
 15:58 横尾 B.C.着

毎日毎日とんどんどん履物がたまってくるみたいだ。朝めしを食って
 出発まであまり時間がないため、ゆっくりくそをできたい
 のがほしい。明日の訓練はさくちんでありますように。

6/2 (木) << 奥穂高岳へ >>

- A12-1 (2細川、藤田、井上、登野、杉浦、磯田、森、大前、加藤、杉浦、竹本) ①
 4:20 横尾 B.C.着 ①

- 7:10 川沢着 雪割をはじめる (カマズ、リセット; ビンカ、ト) ①
- 9:00 雪割をやめ 白出のゴルへ向かう。磯石を淵沢に残す ①
(9:20)
- 10:30 白出のゴル着 ① (10:55着)
- 11:40 奥穂山頂上 途中、ザラザラい 冬服も雪が降り雪田を降りた。頂上は、視、果て ①
研 (12:05着)
- 12:40 白出のゴル通過
- 13:20 川沢 カマズとリセットで11時に川沢へ。 ①
(13:40着) ②
- 14:45 B.C.着 ①

一日中晴れで風が少なかった。自分としては淵沢から白出のゴルへの登りが遅れ
ぎみで、1P-2Pに迷惑をかけた。登る身はあるが足が出ない状態である。
登りたいという気持ちと、もうやめたいという気持ちが交差する心理状態になり、仲
が悪い。捨てるに是非行きたい。

BIP-2 (鷹取古賀、関本富原、角谷森内、水谷下田) 森内

- 4:30 横尾 B.C 出発 ①
- 5:35 横尾本谷生合上部 雪がとておそろしく歩きにくかった。 ①
- 6:46 川沢着 ①
- 7:15 雪割をはじめる 風強し。非常にさび ①
時間がかくした雪割はできなかった
(9:20から白出のゴルへ向かう)
- 10:35 白出のゴル着 一つだけかきまわった。 ①
(11:00着) 全員 膝ひも、カマズ、シューズを履いた。
- 11:55 奥穂山頂 たいへん寒い。感 ①
激 (12:10着)
- 14:00 川沢 雨具をけずれたリセットをしたため、 ①
(14:30着) ②
- 15:35 横尾 B.C.着 古賀さんがどうでもの説明をしてくれ、 ①
とても参考になった。

今日はたいへん寒かった。というのをやはり天気がすはしく
よかったせいであらう。やはり山は天気がよくなるとは!

1/3 金 奥又白池

AP-71 Xバー L 細川 下川 日本官原 角谷 谷 野 大前

コスタ 積

- 4:20 ① BC 出 久しりに雪の 重さ快調 12)
- 5:25 ① 奥又白池
- 7:00 ① 奥又白池
- 8:30 ① 雪割 (雪土技術の統括) 5)
- 10:00 ① 雪割 (スタカト
- 11:20 ① 下山開始 V 下のコルに下山の予定は 12)
- 11:25 ① 一休み 在村の雪を踏み元を道で 12)
- 2:00 ① 帰天 水谷がクリセトで 12)

3日連続の過剰な降雪 43%の降雪が積雪のため (①)
 行けぬのはよか矣 早く積雪のため 12)

帰天 クリセトで水谷が 12)

積雪あり (雪割は 12)

(12) のて 明日は 12)

(大前)

AP-71 Xバー L コスタ 功 2122 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

- 積入 BC ① 4:20
- 奥又白池 ① 5:25
40)
- 積雪 ① 6:25
40)
- 奥又白池 ① 8:10
40)

積雪 ① 5:25 のて 12)

奥又白池 ① 8:10 のて 12)

雪訓 又夕方の練習 及午後の夕方の練習

松高辰根 10:45
11:20

松高辰根車付 12:30
40

新木橋 13:15) 新木橋から 自らのAP=スレBCまで
30 帰る

麓尾BC 14:25

今日は雪訓の夕方の練習 天候はB.Cに陰までは
もたて大変よかったです (記:カト)

6/4 土 検 XPA- 1. 夕方から 2. 朝から
14:00 外で 検取 モリ 検取
スレ

AM-5:10

4:07 BC出

5:10 一ノ谷

6:10 旧花火場

7:05 川口

8:20 検取下 (養生上)

9:20 検取

9:40 検取

10:05 検取 頂上 20SL

10:45 検取 頂上 20SL

11:10 検取 340K

12:05 旧花火場

12:25 検取

13:50 一ノ谷 14:30 検取 - 14:55 BC 検取 作者?

6月4日 検

L木村 乃乃 2100 320 320- の モリノ 林道
 ミナラ カ-

BC ① 4:05
 -の夜 〇 5:10

旧花束の跡の先 〇 6:10

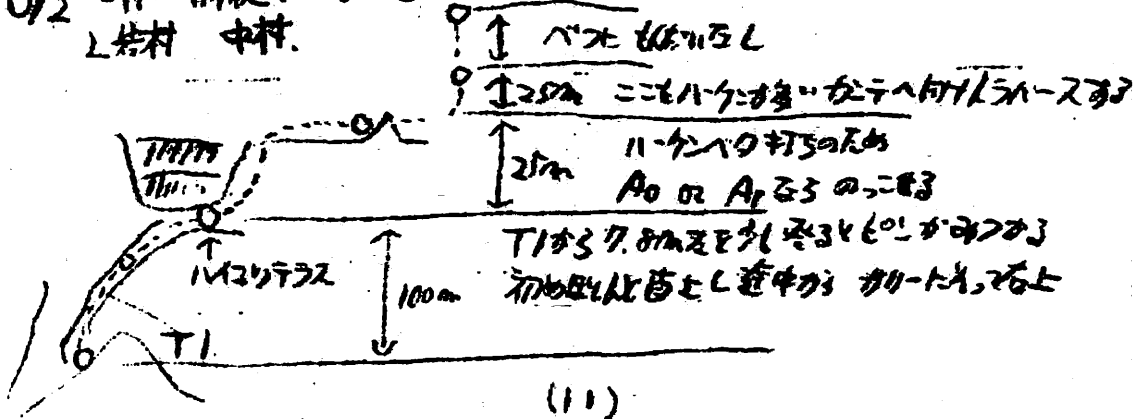
検束の途中 (2300m)	7:00	}	新(合宿最低の壁)
検束の途中 (2850)	8:25		キクシノアツク アスパーンカよふかまけたり (2000m)

検の首	9:10	}	山頂にて山の説明 よく見えた
山頂	9:40		シレたて下る
	10:30		
	10:50		

旧花束の跡	11:15	}	BCにて 4等と1階カス帰る
	12:15		
BC	2:30		

今日は花束の壁と山頂から天気が合宿中では
 ないかと思う 検束の壁を 非常によく 北の方でよく見えた
 明日は下山して探検する (元カ-)

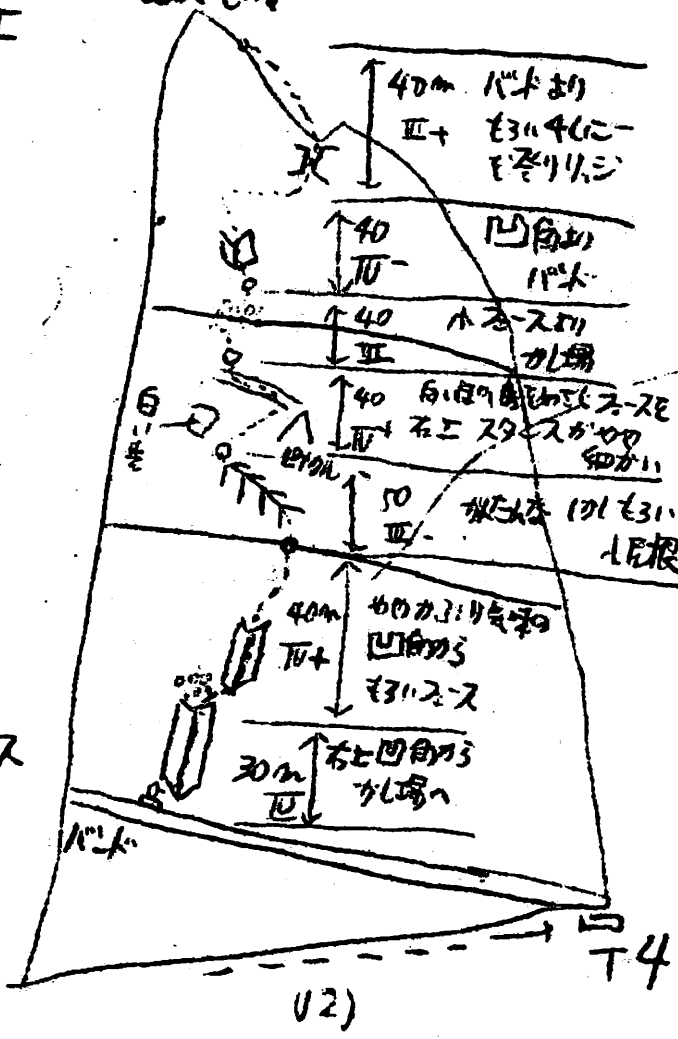
6/2 晴 前徳田峠 西面 北条 新村ル
 L新村 中村.



取付は 5.6のころから少し降り尻根をトラバースD次の基部
 へ戻す 雪の状況の悪い時は 夏道通し(1) 時刻がかわる
 ハンダ帯を23に 中村が 岩が すじ A1にて33状況に
 しておいた状況 なるべく高度区画してたのいル一人とセ
 尾"ま (中村)

6/1 ①/②/③ 滝谷-尻根 1-2L(左)ル-人
 2細川 井上

BC段 4:00
 溜沢 5:45
 北麓 8:00
 B決下
 取付 10:00
 20:30分
 終了 12:30
 [雪割10-14と合流] 下d



(12)

5/31(木) 四峰正面壁松高ルートpartyの記録

② たかとり, ふじた.

3:55 B.C. (巻)

④ 4:55 1P 本谷出合から10分程進んだところ。

⑤ 6:00 2P V-Ⅲのゴルへの登り。

⑥ 7:10 3P インゼル下端付近。

6:30でゴル着。アイゼンを付けて下る。ここでV-Ⅲのゴルを少し下り
トラバース気味に達する。

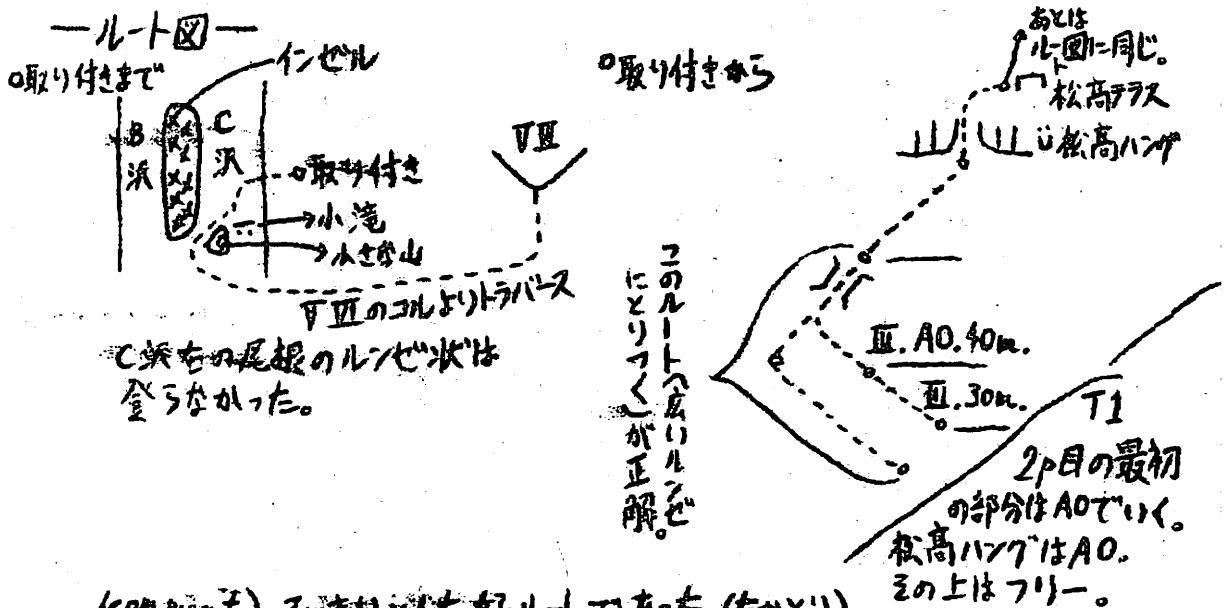
⑦ 8:25 取り付き。

⑧ 10:25 松高テラス

⑨ 10:45 " (巻)

⑩ 12:00 終了

⑪ 12:30 Ⅲ-Ⅳのゴル Bparty 及び Aparty と合流。帰天。



(comment) スッキリした好ルートであった。(たかとり)
むっちりとした好ルートであった。(ふじた)

6/1(水) 滝谷三尾根パーティー

① サワダ, コガ

① T.S 3:35

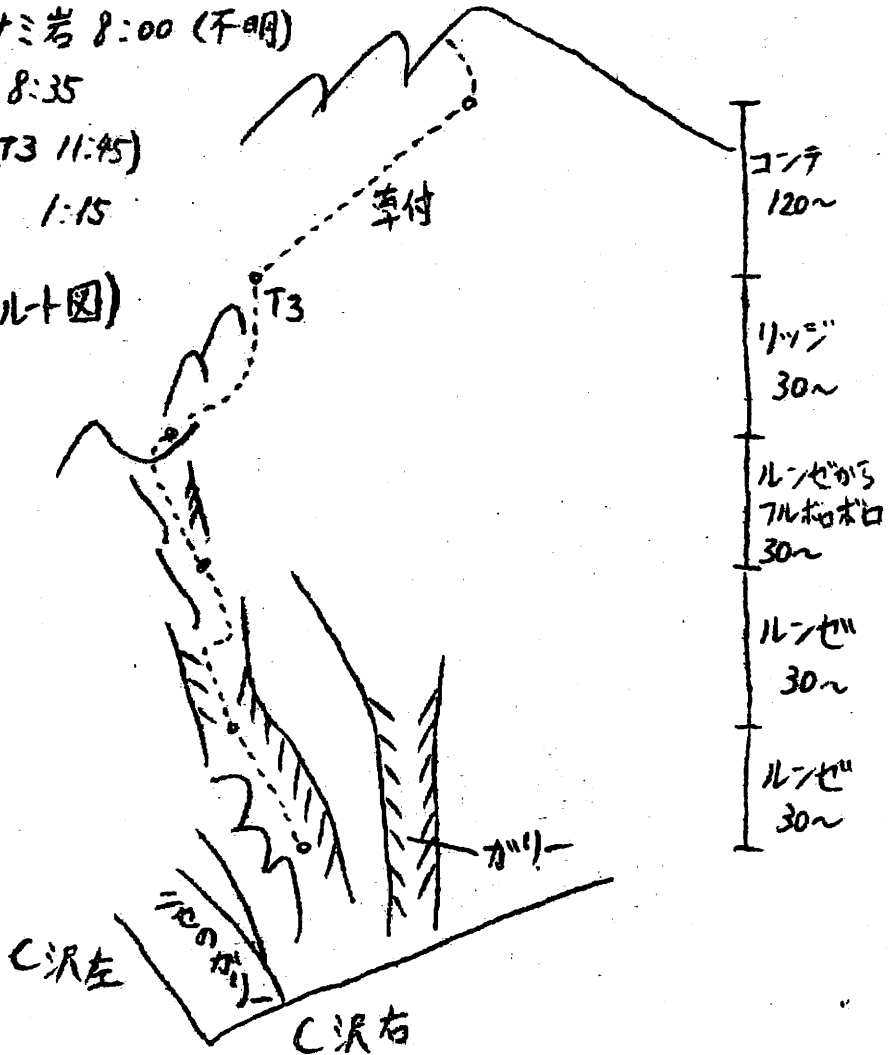
◎ 戻ッ 松ナミ岩 8:00 (不明)

◎ 取付 8:35

終了 (T3 11:45)

松ナミ岩 1:15

(三尾根ル+図)



コメント. 二度と行かん。(コガ)

記:古賀

各係からの反省

装備(古賀): 装備は準備段階で手間取らず、必要充分量を
持って行けた。9mm x 2は削り水でしめたが是非持って
行きたい。装備費が若干高くつくのが近頃の合宿で
あるが、たぶんメタとシュリンゲ(テント、フライのサイドセ張網)
であるが、メタは前の山行の残りをしかりと管理して次の山行
に引き継ぎ、シュリンゲもなるべくさなりようにすれば良いでしょう。

Essen(鷹取): 量的には昼食が若干少なかったことを除いてほぼ
良かったと思う。Essen費が1日¥700を越えたのは
反省すべきことで、通常¥600以下である。(しかし何故
こうなったのかはわからん。)

Essenの作り方は、1年のレベルとしてはますます
であると言いたいが、ブスの扱い、Essenの段取り等、
問題はあるので、今後慣れていって欲しい。

会計報告(藤田): 総収入 ¥198,500—
総支出 ¥177,504—

残金 ¥20,996—
部費へ ¥18,000—

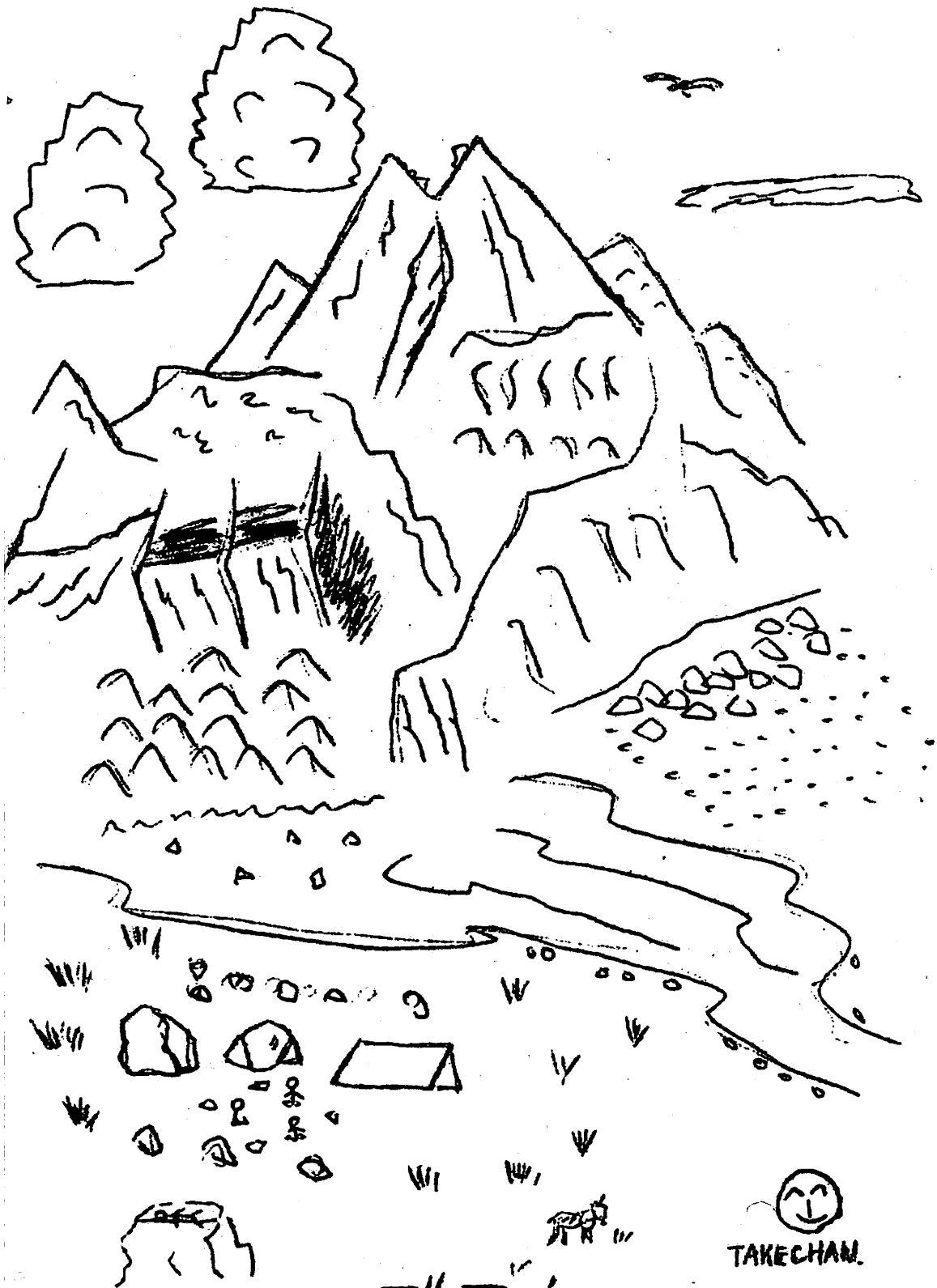
部費へ ¥2,996—

Essen 692円/人・日

装備 962円/人

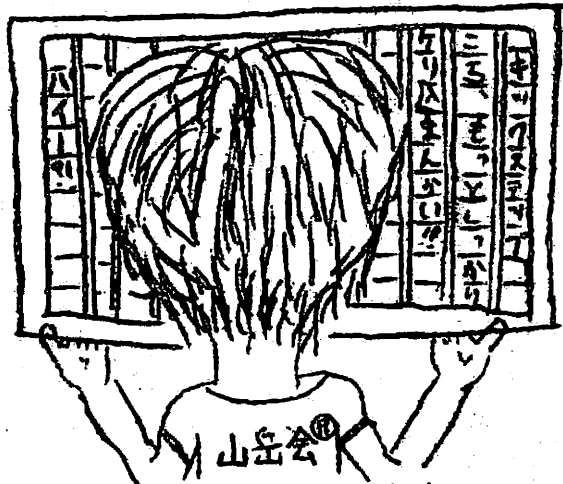
交通 { タクシー 1台 ¥3,000円
" " 10,000円

* 帰りのタクシーは予約
したほうがいいのかもわからない。



TAKECHAN.

個人の反省



TAKECHAN

中村 今年の1年生は、やる気はあるようなのだから
それが能率にまゆれしていないような気がした。
自分自身も去年にくらべれば声が出ていな
かったように思うが上級生としての責任の
重さを感じた。

鷹取 1年はよく頑張っていた。体力的、技術的な
ことは、新人合宿で認識する段階ではない
ので、今後いかに身につけていくかが問題
であると思う。
とにかく真面目にやっていたらしい。

藤田 1年にとり、新人合宿は印象的であったと思う。
小廻りの技術、Essen等、生給技術は、これから
意欲的に技術取得に努めたい。
個人的には昨年度合宿に参加してないので
多少なりとも不安があったが、上級生としての
ムツは、こなせたと思う。しかし最終日に体調
をくずしたのは何とぞ情けない。

古賀 1年は全力を出し切る姿勢が短かった。
とくに体力のあるものが辛を抜いていける様に思えた。
前半自分で考えたい様に行動できたと思うが、
後半ダラけてしまい、ケツムに欠けた様に思う。

井上 2年が自分一人なので本来なら最も行動しな
ければならないのだが全日参加できず残念
だった。生給指導については、自分なりに、こま
いたつもりだが、1年には徹底しなかつたよ
うだ。今後1年は緊張すべきところと、気を
ぬいていいところの区別をはっきりして、節度を
きいて行動してほしい。

磯田 今回の合宿で自分の体力・精神力の不足を思い
知らされました。体調悪くしたのを覚悟ですが、
之れを乗り越えなかった自分を情けなく思います。
今までの1人が2人ぐらいの山行と快。また
く感じながら、とまどいを感じています。

大前 8日間 暑くて快晴続きでよかった。荷物は
重かったが最後までリテずにやめたのでよかった
と思う。雪訓は技術を完全に自分のものに
する事ができなりのが残念だった。

岡本 つかれた。夏の休まる日か1日もなかったこと
が、精神的にかなりよかった。老若人々の
ろもへへと、これからは体をまたえていくことに
精をたそう。

加藤 先輩の言う通りに雪上技術の習得ができた
事か残念です。雪上技術の訓練でスト
ルを抜いたようなところがあった。1週間その長
白山にいて、全日天候がよく晴れたのはよかった
と思う。毎日のあやがよかった。

角谷 初日に虫退きとまもをついてしまし、1週間
苦しみぬいた。と早くまた対策をたすは

よかた。また体力的にも 2112 行くの
が やりとたつた。また 香土が 時 東 越 と 2 月
つ 4 月 2 日 と 年 日 ぬ り た こと も あつた。今後
は 毛 2 ト ー ニ ン グ し て 体 力 を 3 月 1 日 と 思 っ
て 毛 1 回 毎 日 行 動 2112 行 っ て 2112 よ かつ
と 思 っ ち 。

下田

今回の合宿が自分にとって初めての北九州
3000メートルの山々である。また、緊張の連続
だった。九州の高層みたいな山しか知らなかつ
たし、体力も全然なかつたので、思うように行動
できなかったし、やむを得ず仕事をなまけてた
感があつた。自労働量がななかなかに多い
津はない合宿だった。しかし、2 月 1 日 2 日 3 日
4 日 の 北 九 州 へ 入 っ て 来 た こと 思 っ ち 。

杉浦

たいてい物をして、箱に詰め込むか、けつとまた、3 月
大変更かつたと思つている。コンピュータが
ななにか回数を重ねる箱、不片になつた。なな
かわけがらなし。とにかく回数 3 回 2 回 1 回
しよう。失頭でキックステップ 2 回 1 回 時、いかに
蹴り込むことより、早く折くことはかりな
していった。

煙草がきつて来るのに、お世他のく好品が新



之れが、いのたさうか、料に自分は、述言時に
煙を吸って、のどが、つまるよ、存見、此なる
のため。産後、た、自分、斜視、2、水、石、巻、に、つ
つ、入、本、2、く、の、は、問題、を、は、人、は、この
場合に、本、が、大、変、必、要、の、人、と、か、え、持、た、人
と、か、い、は、し、1、1、の、体、を、同、が、基、礎、と、な、り、ま
ま、う、の、で、少、な、く、も、流、水、の、存、在、所、は、各、自、に
ま、か、せ、て、は、？、上、記、の、点、か、と、し、て、理、解、を、ま
せん。

竹本

實際がどうしたか、た、某、人、が、い、い、中、
確、か、に、し、た、か、い、ん、ど、か、存、在、は、し、ん、ど、か、
た、合、商、の、い、う、意、は、た、い、か、~~出、産、~~か、た、合、商
の、い、う、い、う、の、族、2、の、ほ、う、の、理、由、と、し、て、年、に
後、い、い、た、か、ら、た、と、す、れ、は、僕、も、い、う、の、か、も
し、た、か、い、ん、か、自、分、と、し、て、年、に、換、法、の、い、う、と、い、う、
を、教、へ、て、登、上、の、法、則、に、か、あ、り、ま、す、結、局、は、自、ら
い、う、か、も、し、た、か、い、ん、か、BC、の、情、況、を、か、ら、の、Essen
の、任、事、な、ど、の、事、を、考、え、て、登、上、の、時、に、金、力、を、出、
す、る、こ、と、は、あ、と、り、お、い、な、い、過、感、を、か、け、る、こ、と、に
な、る、の、で、は、ま、い、か、と、自、分、は、思、う、の、と、あ、り、ま、す。

よ、り、登、上、が、い、い、は、ど、り、も、金、力、を、出、さ、る、が、頂、上
の、着、いた、時、の、金、力、も、い、い、か、い、ん、と、あ、り、ま、す、が、僕、は
へ、つ、に、金、力、を、出、さ、る、く、も、と、い、い、と、思、う、こ、と、に
な、る、の、で、あ、り、ま、す、し、か、し、行、動、中、を、意、味、切、味、が、

いた自らのことと考えると、こころは又白き行
動に 体力不足であった色を原稿すかきである
ことなるともします。いや、やはり反省もしてです。
しかし仮に体力が五割と少くても、全力を絞ることに
は、僅は種族でさかぬまま。

水谷

まさかにはりも歩く速さの速いのに驚きました。
ただその前の人に遅れぬように、ついでに、必死
で、歩行中での走り出しといえは、道に落ちるよりた
るころの大速さが大変、所が右とが小こり所が、
たぐらぬもので、まかりの景色なども、まご覚えて
いまい人。また小急ぎとゆう一つの集団として
非常によく統制のとれられているのに、強い印象を
受けました。とりてき上下関係がまごしい
という点では、ななく、比較的ゆき合ひ合ひと
した霧室気の中で、全道がとれとれ、役目
を忠実に果す中から生まれてくるまとまりの
こととす。最後に食事からまごの驚きま
ごした。は、まごりつて、山で食うめしと、おれほど
感動も受えたのは、は、まごりつて、こととす。

森

ト、二つの不足による体力の無さを痛切に
感じた。それにもかかかす「バツ」の危
険があり、常にバツをつらしては、わけでは
なく、要領よく覚悟した部分があったと、思う。

その点で、心もまきまに欠けていたと言え
た。行の重さでは最初より少しは良くなったと
思うが、またまた大りに未熟である。その
自分で不安が残るとともに、二かからの
題になると思われる。合宿全体について
何かかか言、でも全日晴れて行動予定も
順調にこなせて充実した山行だったと思う。

森内

今回の山行では、いろいろな事と学び、僕の
山登りに大りにカッを入れる結果になりま
した。僕としては、この山行では信州大学
山岳会の全を吸収することは出来ませ
んでしたか、しかしそこでこの部の奥の深さ
と、まがしさを知りました。僕の与までの山行
の域をはるかにこえて、正直いっておどろ
くところもあって、とまどいも感じました。
したがって反省すべき行動や、態度も多
く自分にとっても、満足のできた山行だった
とは言えません。しかしこの体験と反省を
通して、次回の山行をよりよいものにして
いけば、この山行も意味のあるものにな
ると思います。



新人合宿報告書

昭和58年6月25日 一刷発行

発行者 信州大学学生会



印刷所 信州大学松本印刷所